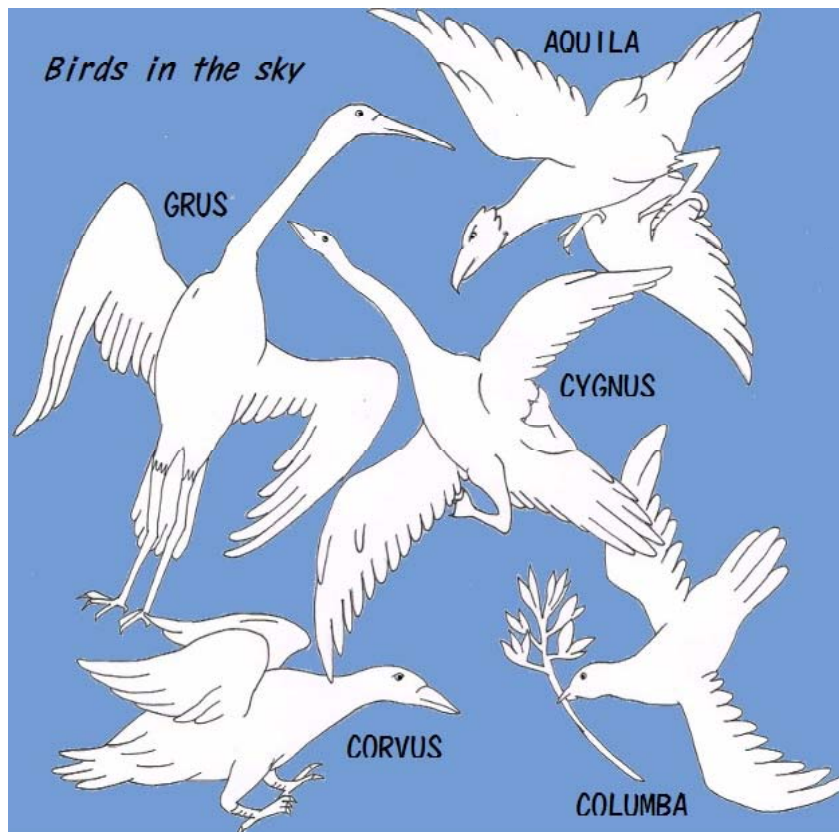


しらす



第80号

特集：紀伊長島の海と鳥 II

2014年6月 日本野鳥の会三重
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

堀内 弘 大いに語る 紀伊長島の海と鳥 (その2)

語り： 堀内 弘
取材・編集：平井正志・西村 泉

＝オオミズナギドリと

その他の鳥など＝

オオミズナギドリ

オオミズナギドリのことこの辺の漁師はマトリという。オオミズは年中おるなあ。夏の繁殖期でない時にもたまに沖で見る。数は多くないけど。でもオオミズが多くなるのは春先、さんまが行き来する時やな。そして 10 月くらいまでいる。大島ではオオミズの巣はいたる所にある。木の根の間とかにも作っとる。親が出入りしている時は入口が美しいんさ。出入りしてない、使っていない巣は入口に枝や落ち葉があつてすぐ分かる。大島以外の島でも巣はあるんやろうけど、確認していない。



オオミズナギドリ

大島ではネズミがふえとる。いろんなもの食べとるみたい。ウチヤマセンニュウの卵も食べとるんやろうな。ネズミは工事の時にいったんやろうと思う。灯台があるので。でもオオミズの数はずっと変わらんや。

カラスバト

カラスバトは大島、鈴島、赤野島にもおるし。平瀬島にもエスキ島にもカラスバトの

らしい巣があった。しかし、耳穴では見ていない。減つとると思う。最近見やんのさ。7 年くらい前、大島の浜で見とって、人が林に入ると。島の木の上を飛び渡るのが見えたんやけど。全部で 13 羽くらい見た。重複もあるで、全部で 9 羽くらいおるかという感じやった。最近は猛禽が増えた。大島にもハヤブサがいる。今日 (2013 年 11 月 6 日) も大島の近くでカラスバトを待っていたが、姿も見えなかつたし、声も聞こえなんだ。

目 次

堀内 弘	
大いに語る紀伊長島の海と鳥-----	1
倉田 篤の残した記録-----	4
ミヤコドリカウント 2014/3/10-----	5
私のフィールド-----	6
探鳥会と私-----	7
日本野鳥の会三重 2014 年度総会-----	8
事務局だより-----	12
行事予定の訂正-----	12
野鳥記録-----	13
探鳥会報告-----	17
編集後記-----	21

表紙の言葉

杉原 豊

全天 88 星座のうち、鳥の星座はいくつあるでしょうか？

9 つと全体の 1 割以上になります。

昔の人も、鳥が大空を飛んでいるのは自然なことだったのでしょ。

そのうち、日本から見えるのはからす、はくちょう、わし、つる、はとの 5 星座です。

(残りは南天の ふうちょう、くじゃく、きやうしちょう、ほうおうの 4 星座)

この季節、南の空に、からすが大きな海蛇の背に止まっているのを見ることができます。



カラスバト

ハヤブサとヒヨドリ

昔はハヤブサはあまりいなかったけど、最近、去年くらいからハヤブサが大島までも来るようになったんさ。耳穴島の付近でヒナの声が聴いたことがあるし、2羽でいることもある。2羽で協力して獲物を追うんさ。ここらでは増えているようなんさ。たしかに多いと思う。今はどこでも見る。

ヒヨドリが秋10月終わりごろからこの海を東の錦(にしき漁港)の方やアサマ(城の浜付近)から西、ミヤマの方に渡る時、500羽くらいで群で渡るんやが、それにハヤブサがズバッと突っ込むんさ。ハヤブサはナカノシマ(マッサキ)で待つとるんさ

ヒヨドリは200から300の群で海面すれすれで渡るんさ、今年(2013年)は特に多かった。1000以上の群で渡ったな。

アマツバメ

アマツバメはどこの島にもいる。エスキ島、赤野島、耳穴島、平瀬島、大島にはいる。鈴島だけは確認していない。昔は結構どこにでもいた。以前は何千と飛んだんやけど、たまって空飛ぶときに今はちょっと少ないかなと思うが、そんなに変わりはないと思う。

ウチヤマセンニュウ

ウチヤマは赤野島、平瀬島、耳穴島、大島でいるのは確認している。足環つけるバンダーが何年前に来たんやけれど、波で上陸できなんだようや。鈴島にもウチヤマはおったんやけど、最近、ウチヤマはきこえんようになってるんさ。海岸よりに萱がなくなってもんで、そいでやと思うんやけど、ウバメガシになってしもうて。ウチヤマの声聞きにいくんやけど。鈴島だけにはウチヤマは聞こえんさ。

クロサギ

耳穴島で多い時で4羽くらい見た。繁殖している。ヒナを見ている。赤野島の周辺にもおるんやけど、海をわたつとるのを見たことがあるんさ。

アカエリヒレアシシギ

この鳥はここらでアワクイというんやけど、3月4月わたっていくときに見る。だいたい毎年見る。春の方が多かな。



アマツバメの
飛翔

カワウとウミウ

カワウは赤野島で繁殖しとる。調査したら、1800 くらいおるといってね。環境省はカワウを駆除したけど、そいでもまだまだおる。駆除したあとテープを張って、そこはおらんようになったんやけど。他の方にまた巣を作とる。大風が吹くと巣がみんな飛ぶんやけど。また、作りよる。

ここらにはウミウもいるんさ。大島の一か所平らな所があって、そこへ止まるのはだいたいウミウなんさ。一番沖にサバル島があって、岩礁やけど、ウミウやヒメウが来る。ミサゴも止まる。

鈴島のシカとイノシシ

鈴島も亜熱帯の植生があるんやけど、カラスバトはいる。鈴島は陸地から 1 キロちょっとやもんで、猟師に追われるとシカやイノシシが泳いで渡るんさ。シカも何匹かおる。木の皮むいとるし。文化庁が駆除で捕ったんやけど、まだおる。毎年行き来しよるようやし、池の周りに足跡いくらでもあるでね。

＝紀伊長島の鳥類調査と苦勞＝ 調査の後継者

調査の後継者がほしくて探しとんやけど、ここらに住んで、船があって、免許があって、鳥がわからないかんし、なかなか難しい。昼間暇な人間やないと、仕事を持っているとやれん。なかなか難しいんさ。調査も結構金がかかる。調査のため、一回海にでると燃料代が 1 万 5 千くらいかかる。それに船を直すにも結構高つく

んさ。船を上げるだけに 8 千から 9 千かかる。一度上げると最低 3 日はかかる。貝を落として、ペンキを塗って、乾かして。貝が着いてないと楽なんやけど。ペンキ代だけでも 1 万、スクリューに塗る亜鉛塗料が 4,5 千、それに塗る薬に 7,8 千 全部で 3 万以上かかる。環境省も船の修理代を出してはくれないんさ。

調査は地道な仕事。でも長島は自然が豊富やし、保護にかかわることができてうれしい。海に出てると気楽やな。海から陸地を見るとちっぽけに見える。

カンムリを見てもらう苦勞

カンムリを見に来るお客さんがようあって船に乗せるが、来ると見せたいし、団体で来られると見られずに帰すわけにもいかんし、見えんとつらいんさ。天気予報は毎日見る。天気図を見て、風が収まると思う日にお客さんの来る日を入れるんさ。でも土日がいいと言われてたりして困るんさ。また、陸地では風がなくても海へ出るとうねりがある時もあるし。今年(2013 年)はよかった。来た人もみんな良く見えたりし。

船の上でも自分の目の届く範囲におってもらわんと困る。目の届かん船の後ろに座って船から落ちたらめっちゃやもん。自分の船に乗せれるのはせいぜい 4, 5 人までやな。また、冬は寒いんさ。自分は囲いの中(船室)に入るとるからいいんやけど、お客さんは外やからかわいそうで見られん。お客さんに来てもらおうと苦勞が多いんさ。

(終わり＝写真も堀内 弘：撮影)



岩礁で休むウミウ

倉田 篤の残した記録

津市 平井正志

倉田 篤は教師として四日市南高校に赴任中の 1967 年から紀伊長島周辺の鳥類を調査し、貴重な記録を残した。残念ながら、調査中の不慮の調査船転覆事故により 1970 年 4 月 27 日に若くして死亡している。紀伊長島周辺の海鳥調査の主要な部分は「三重生物」に掲載された論文、熊野灘沿岸の鳥類(倉田 1968)と彼の死後 1971 年に出版された「紀伊長島の鳥類」にまとめられている(倉田 1971)。この本には当時の紀伊長島町長が序文と追悼文を書くなど、彼と彼の調査にたいする地元の期待の大きさがうかがわれる。彼はその他にも四日市南高校の山岳部を率いて、沖縄西表島へ調査に向き、また大台ヶ原の鳥類の調査も「三重生物」に報告している(倉田 1966、倉田・池山 1968)。これらの出版物は一般には手に入りにくいので、それらに記載された記録のうち紀伊長島周辺の海鳥に関連した特記すべきものをここにまとめる。なお、参考にした文献は末尾に記載してある。彼が生存しておれば、その後も数々の記録を残したことであろう。

カンムリウミスズメ：

紀伊長島では特記すべき繁殖している鳥である。耳穴島の北側斜面のウバメガシ林などの地上に巣穴を掘り繁殖しているとされており、付近の植生図も掲載されており、実際に上陸して調べたものである。1969 年での営巣個体数を 100 から 200 個体と

推定している(倉田 1971)が、この数がどのような根拠に基づくのかは記載されていない。なお堀内(2014a)は現在での推定数は 100 以下としているので、この 40 年でかなり減少したと考えられる。また、耳穴島以外での繁殖は記載されておらず、この海域では近くに多くの無人島があるが、以前から繁殖はなぜか限定されていたようである。

ウチヤマセンニュウ：紀伊長島の鳥類にはシマセンニュウと記載されているが、当時はウチヤマセンニュウがこれはシマセンニュウの亜種とされていたことによる。耳穴島のみで繁殖し、大島、鈴島、赤野島での繁殖は記録されていない(倉田 1971)。堀内(2014a)によると大島でも繁殖しており、鈴島では最近まで繁殖していたとしているので、この間に繁殖地を広げた可能性がある。堀内(2014a)が指摘するように地上の植生の変化が影響しているのではないだろうか

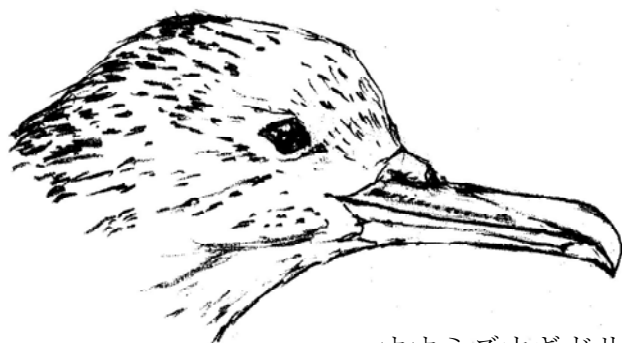
カラスバト：当時から国の天然記念物であり、耳穴島、大島、鈴島、赤野島のすべてで観察されており、大島と鈴島で繁殖しているとしている。また、鈴島での巣の写真が掲載されている。繁殖数は+2と記載され、2巣は確認しているようである(倉田 1971)。当時から数が多くなかったのであろう。

オオミズナギドリ

大島で繁殖しており、繁殖個体数は 250-350 と推定している。

アマツバメ

耳穴島および大島での繁殖が記載され、繁殖個体数はそれぞれ 250 から 300、および 100 から 150 と推定されている。また、「三重生物」に掲載された論文では、倉田(1968)はダイヤ岩、二又岩、尾鷲市佐波留島でも繁殖していると記載している。



オオミズナギドリ

ウミウとヒメウ

倉田は紀伊長島海域で見られるウをウミウとヒメウとしていて、カワウを記載していない。これらのウは大島属島の象岩、桃の木鼻、赤野島南壁、大石などとしている。カワウは今では赤野島で集団繁殖し、駆除の対象となっているが、1960年代後半には飛来していなかったのであろう。

ミサゴ

1969年に大島、鈴島、赤野島に4つがいの営巣を確認している。また、度会郡南島町相賀浦、奈屋浦間でも3つがいの営巣を確認しており、かなりな高密度で繁殖していたのであろう。これらミサゴの繁殖は近年調査されていない。



シャガ

クロサギ

鈴島、赤野島、大島、耳穴島で繁殖していると記載されている。耳穴島ではウバメガシ林の地上で巣を確認している。

クロサギやミサゴなどの繁殖については近年の釣り人の増加による影響が懸念される。地上で営巣する鳥類にとっては舟などから入るドブネズミは決定的な影響を持つ。

その他の鳥類の特記すべき記録

オオアジサシ

1970年4月27日ダイヤ岩沖

オオアジサシは近年三重県中部でしばしば見られている。紀伊長島では以前から飛来していたと考えられる。

イヌワシ

1968年11月22日鈴島

大台ヶ原山系で繁殖していたイヌワシは現在絶滅してしまった。おそらく鈴島に飛来した個体はこの繁殖群の個体であろう。

オオハム

1969年4月22日 紀伊長島沖

アビ

1969年1月28日三浦沖、1970年3月28日紀伊長島沖（戸田）

参考文献

倉田篤(1971) 紀伊長島の鳥類。紀伊長島町、紀伊長島

倉田篤(1968) 熊野灘沿岸の鳥類 三重生物 18:98-103.

倉田篤・池山雅也(1968) 紀伊半島大台ヶ原山における鳥類の生態調査報告 三重生物 19: 11-18.

ミヤコドリカウント2014/3/10

津市 岡 八智子・今井光昌・平井正志
この冬3回目のミヤコドリカウントを行いました。2014年3月10日 満潮は12:24、長潮でした。ミヤコドリカウントは10:30より、ズグロカモメも同時にカウ

ントする場所では10:00からカウントしました。

カウント結果

ミヤコドリ

北部地域 高松海岸 7羽、鈴鹿川河口・鈴鹿川派川河口・楠海岸いずれも0羽、

中部地域 田中川河口付近・豊津浦・
町屋浦 0羽、志登茂川河口 5羽、
安濃川河口・中河原海岸 28羽、
阿漕浦 0羽、御殿場海岸 7羽、
香良洲海岸 0羽、五主海岸 0羽
(後に 6羽飛来)、
阪内川河口 6羽(北へ飛び去る)
金剛川以西 金剛川河口 0羽、
櫛田川以南(以西) 0羽
三重県伊勢湾岸 合計 53羽

三河湾矢作古川(愛知県西尾市)
38羽(西三河野鳥の会
下村孝嘉氏調査)

三重愛知両県 合計 91羽
ズグロカモメ
香良洲海岸 5羽
金剛川河口 13羽
他の調査地は 0羽

コクガン
すべて 0羽

ミヤコドリは愛知県矢作古川と合わせて 91羽でした。昨年 12月中旬で 84羽、1月初めに安濃川、雲出川河口で見られた個体数は 90羽、1月下旬に両県で確認された個体数 109羽でしたので、この期間ほぼ 90羽から 100羽が継続してこれらの地域で越冬していたようです。ズグロカモメも合計 18羽が越冬中でしたが、コクガンはこの冬最高 23羽が見られましたが、早々に北へ帰ったのでしょう。

なお、調査員は以下の方々です(敬称略)。石原宏、前田聡、久住勝司、林益夫、中村洋子、田中洋子、安藤宣朗、西村泉、橋本祐子、世古口有司、岡八智子、今井光昌、平井正志

私のフィールド

伊勢市 世古口有司

3日目によく雨が上がりました。昨夜はちょっとした嵐でしたが、昼前に止み少し薄日もさしてきたのです。さっそくいつもの五十鈴川堤防に歩きに行きます。自然観察散歩とかウォーキングとか、時には写真撮りと称して、毎日のように近場をうろろろしています。そうした中から、私がよく行くフィールドの鳥見事情をお伝えしたいと思います。

まず、宮川の広大な河口です。ここは毎年のガン・カモ調査を担当しているののでずいぶん前から通い続けています。かつては右岸の後背地に池や荒れ地があり、変化の多い場所でしたが、今はほとんど住宅地になり、やや面白味がなくなりました。それでも、シギ・チドリやカモ類、タカの仲間も結構見られる伊勢市では随一の探鳥地かなと思います。

大洲でマガモやヒドリガモのんびりしているその近くの干潟ではシロチドリやハマシギが動き回り、さらにその横ではミサ

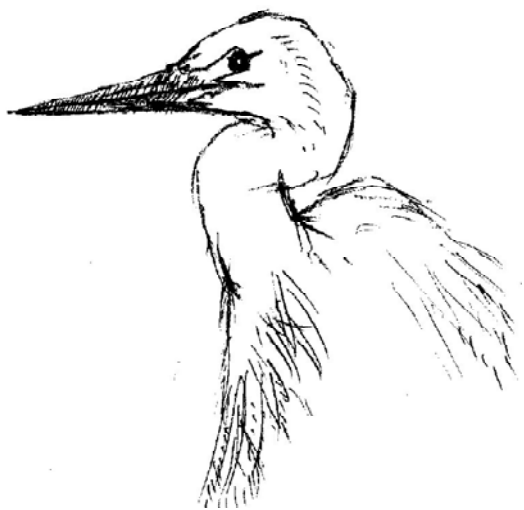
ゴが盛んにダイビング。といった光景をゆったり眺める探鳥地です。

絆の森に行き始めたのは4、5年前からでしょうか。ここは県営サンアリーナの近くの里山で、8年ほど前に市が遊歩道などを整備したものです。変な植栽があつたりしますが、安全に里山を楽しめます。鳥の種類は多くはありません。冬の混群が一番の楽しみでしょうか。時にオオタカやハイタカに出会うことはあります。周辺の田んぼでツバメ、コシアカツバメ、ヒメアマツバメが何百羽同時に飛ぶのを見たこともありましたが、この森がなくなることはないでしょうが、隣の祝祭博後に整備した工場団地がこここのところ販売好調で今はかなりの建物が建ってきましたので、その影響が少しずつ出てくると思われれます。でも、さらにその前の祝祭博で破壊される以前の姿を知る者にとっては隔世の感があり時々呆然とします。

9月末から10月上旬はタカ渡りの季節。伊勢市にはタカ渡りの観察ポイントがいくつかありますが、私は五十鈴川派川にかかる橋橋で見ることが多いです。鳥羽方

しろちどり 80号(2014年6月)

面から飛来するものと伊良湖岬から海を渡って直接二見・音無山の方へ来たタカがその上空に上がってくるものが見られます。でも、数は少なく、ここで見ているのは私くらいです。タカのほかに、付近の農耕地、耕作放棄地などで鳥や草花の観察を楽しんでいます。ごく普通の静かな場所ですが、最近下流に新しい橋が架かり、横の道路を通る車の数が増えてきました。また、農地の埋め立ても進んでいます。ちょっと心配しています。



ダイサギ

私の住まいは五十鈴川右岸下流の住宅地と農耕地が混在する地域で、それなりに自然を楽しめます。1年くらい前からほとんど毎日のように、川の堤防や田んぼ道を歩いているので、何と言ってもここが一番のフィールドです。川幅は広くて400mくらいあるのででしょうか。大きな干潟が出ますが、シギ類の種類はそう多くありません。初夏にはコアジサシが姿を見せましますし、夏の夕方にはねぐらに向かうツバメやダイサギが飛んでいきます。秋から冬はかなりの数のカモ類が見られます。

農地にはこの地方で見られる鳥はたいてい見られます。昨年12月のある日、田でタシギ、タヒバリ、タゲリを見ました。「田」三役揃い踏みです。ときには、ツミやチョウゲンボウも姿を現します。先日、このあたりで見た鳥の種数を数えてみましたら、74種でした。多いのか少ないのかは分かりませんが、普通のもが普通に見られるのはうれしいことだと思います。夕方、シギの声に誘われ家を出て、伊勢三山に沈む夕日を眺めながら川沿いを歩くのは至福のひとつです。

鳥見を始めて20年少し。やっていることは変わりませんが、見る場所は移ろっています。近年では大規模な開発による破壊はあまりなくなってきましたが、小さい規模での自然の消失はむしろ増えているような気がします。そんなことを身近に感じる私のフィールドです。

探鳥会と私

伊勢市 中村悦子 (E.N)

私が夫と伊勢市に戻ってきて7年になります。それまでは愛知県稲沢市に住んでいて、鳥には興味はなくて、伊勢湾周辺に釣りに行っていました。弥富の野鳥園でキジを見たことがあったくらいです。

私の家の周りは海と田んぼで、冬の漁港にはカモ類が来ていましたが、名前もわからず仕舞いでした。

初めて探鳥会に参加したのは5年前の大仏山で、中日新聞に案内が出ていて、生ま

れ在所の懐かしい山に行ってみようと思いましたが、観劇用の双眼鏡を持っていきましたが、皆さん立派な双眼鏡や望遠鏡を持っているので、ちょっと恥ずかしかったですね。でもその双眼鏡は犬の散歩のときに持っていく、町内での観察に役立っています。鳥の名を教えてもらったり、望遠鏡で見せてもらったりして、少しずつ鳥のことを覚えていきました。

探鳥会では鳥の名はさることながら、樹木や草木の名前も教えてもらって勉強になります。〇〇は〇〇の実を好むとか、歩いている途中で咲いている花の名を教えてもら

えます。もちろんフィールドマナーも教えてもらえます。

見分けのつきにくい鳥は実際に見たときに図鑑で違いを比べています。コチドリとシロチドリ。初めは全くわかりませんでした。胸の帯、足の色、鳴き声などでわかるようになるまで何回も探鳥会に参加しました。しかし、これにイカルチドリが加わると、先輩方はすぐに判断されますが、私にはまだわかりません。何度もよく観察して特徴をつかまないといけないですね。

毎回さんかしているとその年の数が多いか少ないかわかるようになりました。2～3年前にツグミが少ないときがありましたが、今年は非常に多く見かけました。そしてツグミが去りツバメが来て、鳥で季節を感じるようになりました。

今は念願の望遠鏡を購入して練習中で

す。まだなかなかうまく扱えませんが、早く慣れて皆さんに追い付きたいと思いません。



ミヤコドリ

~~~~~  
**日本野鳥の会三重 2014 年度 総会**

日本野鳥の会三重の 2014 年度総会は年 5 月 18 日(日) 三重県総合文化センター 3 階 セミナー室 C で開催されました。2013 年度活動報告、および 2014 年度活動計画が承認され、また、2013 年度決算報告、および 2014 年度予算案も承認されました。予算案については掲載します。

以下にその資料を掲載します。企画部の活動報告、活動計画は省略します。行事案内、および「しろちどり」各号の探鳥会報告を参照ください。なお、記載は誌面の都合で、適宜省略しています。

**2013 年度 活動報告**

**2013 年度 保護部活動報告**

1. 木曾岬干拓地とチュウヒの繁殖調査

前回のチュウヒサミットから 3 年が経過している。チュウヒネットワークを立ち上げ、サミットを開く準備を進めていた。木曾岬干拓地での太陽光発電装置は据え付けが進んでおり、チュウヒが採餌場所として利用できる領域は狭まった。昨年度 4 年ぶりに一番が繁殖に成功した。本年 2014 年度は繁殖行動の詳細は不明である。太陽光発電設置が大きく影響を持っている可能性がある。

昨冬にねぐら調査も行った。

2. 藤原岳イヌワシ生息地の鉱山開発

イヌワシ生息地で石灰石を採掘している。出口組と話し合いを持った。出口組は現在の鉱山がほぼ終了するので、新しく現在の鉱山の上部を採掘したいとしている。

イヌワシ繁殖に影響がでる恐れのあるため、話し合いをつづけている。

3. 中勢海岸保護 (ミヤコドリ調査)

ミヤコドリの三重県下における越冬数を正確に調査するため、ミヤコドリカウントを行った。高松海岸から伊勢二見町の海岸までを会員が手分けして調べた。

初回は2013年12月14日でミヤコドリ84羽であった。二回目の2014年1月27日にはミヤコドリ56羽、ズグロカモメ14羽、コクガン8羽であった。なお同時刻に愛知県矢作古川河口でミヤコドリ53羽が記録された。三回目は2014年3月10日でミヤコドリ53羽、ズグロカモメ18羽、コクガン0羽。同時刻、矢作古川河口ではミヤコドリ38羽だった。ミヤコドリは伊勢湾周辺で約90羽から100羽が越冬していることになり、三重県の海岸の重要性が改めて認識された。

#### 4. 教育用CDの監修

三雲文化協会の要請により、同協会の作成する教育用CD「松阪市の海辺の鳥たち」を監修した。会員の撮影したセイタカシギ等の画像が用いられた。

### 2013年度 研究部活動報告

#### 1. 委託調査(県)

- 平成25年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査事業委託

調査日：1月中旬 調査地点：177ヶ所 調査者：35名

- 平成25年度カワウねぐらコロニー調査事業委託

調査日：年3回(7月、12月、3月) 調査地点：16ヶ所 調査者：18名

- 平成25年度生物多様性調査「鳥類」業務委託

目的：三重県産鳥類の改訂レッドリストを作製するため

調査：野外調査、文献調査、標本調査

#### 2. モニタリングサイト1000(環境省生物多様センター)

- シギ・チドリ類調査

調査日：各地で年3回(春期、秋期、冬期)

調査地点・コアサイト：雲出川河口五主海岸、安濃川河口～志登茂川河口  
愛宕川～櫛田川河口(3地点)

・一般サイト：鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸  
阪内川河口、城南干拓(5地点)

調査者：7名

### 2013年度 編集部活動報告

会報「しろちどり」を2013年6月に76号、9月に77号、12月に78号、および2014年3月に79号を発行した。79号にカムリウミスズメ等の話を堀内弘氏から伺い、記事とした。

また、当会独自の入会案内を作成した。

### 2013年度 事務局活動報告

#### 1. 総会

2013年5月26日(日) 三重県総合文化センター

#### 2. 理事会

第1回 2013年4月14日(日) 津市雲出市民センター

第2回 5月26日(日) 三重県総合文化センター

第3回 11月24日(日) 津市雲出市民センター

第4回 2014年3月9日(日) 津市雲出市民センター

#### 3. 日本野鳥の会第21回中部ブロック会議

2013年9月7日(土)～8日(日)

プラザ洞津(津市新町)

4. 第10回モニタリングサイト1000

シギ・チドリ類調査 交流会 in 三重

2014年1月25日(土)～26日(日) 三重県教育文化会館

## 2014年度 活動計画

### 2014年度 保護部活動計画

1. チュウヒネットワークと立ち上げる。チュウヒサミットあるいはそれに準じた会合の是非について検討する。
2. 木曾岬干拓地はチュウヒ調査を継続する。
3. 出口組との話し合いを継続し、イヌワシの繁殖に悪影響がでないように交渉する。
4. ミヤコドリについては越冬個体数を3回程度調査する。さらに越夏個体数、等も含めて調査する。これらの調査には、なるべく多くの会員の参加を期待する。
5. 里山、山岳地帯の鳥の調査を計画する。

### 2014年度 研究部活動計画

今後も委託調査(ガンカモ類調査、カワウねぐらコロニー調査)  
シギ・チドリ類調査を行っていく。

### 2014年度 編集部活動計画

会報「しろちどり」を年4回程度発行する。

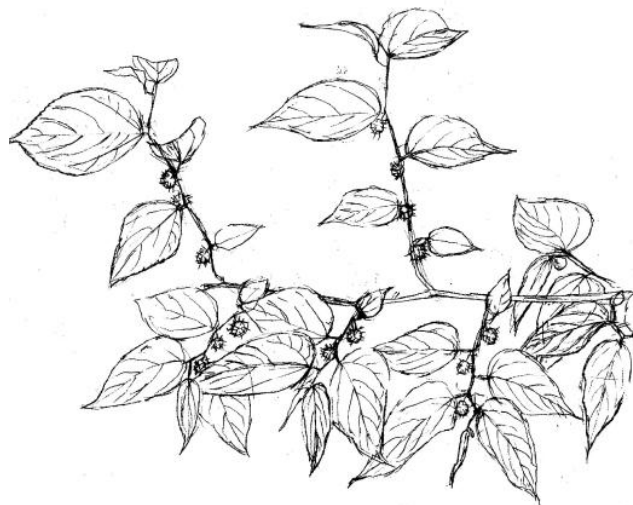
### 2014年度 事務局活動計画

1. 総会

2014年5月18日(日) 三重県総合文化センター

2. 理事会

|     |       |           |             |
|-----|-------|-----------|-------------|
| 第1回 | 2014年 | 5月18日(日)  | 三重県総合文化センター |
| 第2回 |       | 8月3日(日)   | 未定          |
| 第3回 |       | 11月30日(日) | 未定          |
| 第4回 | 2015年 | 3月8日(日)   | 未定          |



コウゾ

**日本野鳥の会 三重 26年度(2014年度)予算書**

26年度 自2014年4月1日 至2015年3月31日

単位:円

| 科 目     | 26年度予算  | 備 考              | 26年度予算会計区分 |         |
|---------|---------|------------------|------------|---------|
|         | 一般・特別合算 |                  | 一般会計       | 特別会計    |
| <事業高>   |         |                  |            |         |
| 支部会費    | 640000  | 2000円×320人       | 640000     | 0       |
| 受託収入    | 1440000 | 生物多様調査減額         | 0          | 1440000 |
| 受取補助金   | 0       |                  | 0          | 0       |
| 受取寄付金   | 7000    |                  | 7000       | 0       |
| 事業高合計   | 2087000 |                  | 647000     | 1440000 |
| 事業利益    | 2087000 |                  | 647000     | 1440000 |
| <事業管理費> |         |                  |            |         |
| 支払調査費   | 815000  | 生物多様性調査終了        | 0          | 815000  |
| 雑損費     | 185000  |                  | 0          | 185000  |
| 通信費     | 219000  |                  | 153897     | 65103   |
| 印刷費     | 298000  | 中部ブロック大会減額       | 294552     | 3448    |
| 消耗品費    | 214000  | パソコン購入増          | 87759      | 126241  |
| 会場費     | 37000   | 中部ブロック大会減額、文化祭実施 | 25276      | 11724   |
| 会議費     | 45000   | 中部ブロック大会減額、文化祭実施 | 41552      | 3448    |
| 旅費交通費   | 241000  | 中部ブロック大会減額       | 165138     | 75862   |
| 支払手数料   | 52500   |                  | 16293      | 36207   |
| 講師謝礼金   | 30000   | 文化祭実施            | 30000      | 0       |
| 図書費     | 10000   |                  | 3103       | 6897    |
| 諸会費     | 5000    |                  | 5000       | 0       |
| 雑費      | 40900   |                  | 22245      | 18655   |
| 事務費     | 51000   | 生物多様調査終了         | 0          | 51000   |
| 保険料     | 29000   |                  | 0          | 29000   |
| 一般管理費合計 | 2272400 |                  | 844815     | 1427585 |
| 事業総利益   | -185400 |                  | -197815    | 12415   |
| <事業外収益> |         |                  |            |         |
| 受取利息    | 1000    |                  | 1000       | 0       |
| 事業外収益合計 | 1000    |                  | 1000       | 0       |
| 当期純利益   | -184400 |                  | -196815    | 12415   |
| <税金等>   |         |                  |            |         |
| 法人税等    | 115600  |                  | 0          | 115600  |
| 税引後利益   | -300000 |                  | -196815    | -103185 |

\* 一般会計で196,815円の赤字、特別会計で103,185円の赤字、差引税引後利益は△300,000円となる。

## 事務局だより

### 活動の記録 (2014年2月～5月)

- 2/14 ミヤコドリ一斉カウント (北勢・中勢・南勢)
- 3/8 四日市事務所 大掃除
- 3/9 第4回理事会
- 3/10 ミヤコドリ一斉カウント (北勢・中勢・南勢)
- 3/19 出口組との話し合い
- 3 会報「しろちどり第79号」発行・発送作業
- 3 平成25年度カワウねぐらコロニー調査事業委託の実施
- 3 決算・委託調査事業まとめ作業
- 4/9 猛禽類専門家より指導を受ける
- 4/16 企画展計画のため松阪ベルファームへ出向く
- 5/9 2013年度決算について監査

## 理事会報告

2013年度第4回 (2014年3月9日) 津市雲出市民センター 出席12名

- 来年度の体制 編集部に補助員を増強
- 総会の体制 役割分担 総会後の催しは交流会
- 野鳥展示会 県環境学習センター  
企画展 ベルファーム 12月初旬予定
- チュウヒサミット 12月頃予定
- ミヤコドリ・カウント 猛禽類も加えるか? 来年までに検討
- 入会案内 文案の検討

2014年度 第1回 (2014年5月18日) 三重県総合文化センター 出席11名

- 総会次第を確認した。
- 総会後の交流会について検討した。
- 野鳥記録 識別の難しい鳥の扱いについて  
山階鳥類研究所に照会する。  
また、識別の十分でないものは参考記録とする。
- 今年度の中部ブロック会議 静岡県
- 会報のカラー化について検討し、引き続き編集部で検討する
- ホームページ しろちどり (PDF) の公開予定 フィールドガイドの更新する。



### 『行事案内 (2014年4月～2015年3月)』に掲載した探鳥会の削除 (取り消し) と追加のお知らせ

先に配付させていただいた『行事案内』に誤りがありましたので、お詫びして下記のとおり訂正します。

#### ①削除する探鳥会

行事案内6ページに掲載の ● 9月23日 (火・祝) 曾爾高原探鳥会

② 追加する探鳥会

● 9月23日(火・祝) 曾爾高原牧場タカ渡り探鳥会

見どころ／新しく見つかったタカ渡りの観察地で、サシバやハチクマの渡りを観察します。牧場の特性上、視野が広く雄大です。

開催地／奈良県宇陀市曾爾村 曾爾高原牧場

集合／8：00 近鉄名張駅東口 解散／12：00 現地

交通／公共交通機関：近鉄名張駅下車（現地までは自家用車乗り合わせ）

自家用車：近鉄名張駅前から乗り合わせて現地へ

持ち物／双眼鏡・帽子・水筒・弁当・筆記用具・あれば野鳥図鑑

コース上のトイレ／あり

備考／参加予約必要 小林達也(090-4268-6750) 田中豊成(090-4088-3164)

問い合わせ／小林達也 090-4268-6750 田中豊成 090-4088-3164

なお、追加の探鳥会についても他の探鳥会同様、公開（会員および一般、子ども連れでの参加も可）、雨天中止、参加無料です。

~~~~~  
野鳥記録 (2014年2月9日から2014年5月13日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所(三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者 名	脚注
ムナグロ	1	2014年1月28日	多気郡明和町	夏羽	今井 光昌	1
ミヤマホオジロ	3	2014年2月13日	三重郡菰野町千草三重県民の森	雄	矢田 栄史	2
アカエリカイツブリ	1	2014年2月20日	四日市市楠町海岸		山神 勝治	3
ビンズイ	5	2014年2月21日	三重郡菰野町千草		矢田 栄史	4
オオジュリン	2	2014年2月26日	三重郡菰野町菰野 三滝川		矢田 栄史	5
マミチャジナイ	1	2014年3月15日	三重郡菰野町	雌	山神 勝治	6
マミチャジナイ	1	2014年3月28日	伊勢市楠部町(皇学館大学寮地内)	雄	西村 泉	7
ツバメ	1	2014年3月5日	南牟婁郡紀宝町井田上野	成鳥初認	清水 勝海	8
ズグロカモメ	1	2014年3月27日	南牟婁郡紀宝町神内 水田	夏羽	清水 勝海	9
マミチャジナイ	1	2014年4月1日	四日市市北勢中央公園	雄第一回夏羽と思われる	伊藤 敏和	10
オオホシハジロ	1	2013年12月21日	いなべ市両が池		伊藤 敏和	11
クロツグミ	1	2014年4月26日	三重郡菰野町千草 三重県民の森	雄	矢田 栄史	12
ヤドリギツグミ	1	2013年12月17日	南牟婁郡紀宝町井内	幼鳥	中井 節二	13
ミゾゴイ	1	2014年4月19日	熊野市有馬町		中井 節二	14
バライロムクドリ	1	2014年2月26日	熊野市久生屋町	成鳥	中井 節二	15

野鳥記録続き

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所(三重県)	雄/雌/などの区別	記録報告者名	脚注
マミジロ	1	2014年5月2日	桑名市多度町 多度山	雄	中川 佐恵	16
ホオジロ	1	2014年4月8日	熊野市有馬町	雄(色素異常)	中井 節二	17
オジロビタキ	1	2013年11月29日	津市内借楽公園	幼鳥	森岡康成	18
ヒレンジャク	15土	2014年3月9日	松阪市光町宝塚古墳		谷口ひろ子	19
キレンジャク	1	2014年3月9日	松阪市光町宝塚古墳		谷口ひろ子	20
ハチジョウツグミ	1	2014年3月6日	松阪市伊勢寺町ベルファーム		中村洋子	21
ナベズル	1	2014年3月24日	松阪市高須町榎田川河口	終認日	中村洋子	-
クロツラヘラサギ	1	2014年4月3日	松阪市高須町金剛川河口		中村洋子	22
ブッポウソウ	1	2014年4月13日	度会郡南伊勢町田曾浦		西山正子	23
キアシシギ	1	2014年5月3日	松阪市高須町(金剛川河口)	標識付き成鳥 夏羽	田中洋子	24

注：

- 1) ムナグロの夏羽が1月下旬に現れました。ムナグロが夏羽になるのは4月下旬ごろからで、換羽異常の特異な個体だと考えますが過去に例がないことから報告します
- 2) 雄3羽が地面で採餌していた。うち1羽は左目のみアイリングがある
- 3) ウミアイサの横で泳いでいた
- 4) マツ林の地面から飛び立つ鳥あり、見るとビンズイの群れ 少し離れて観察する。鳥たちは落ち着いてきてゆっくり地面を歩きはじめた
- 5) ベニマシコ5羽がアシとヤナギの木をいったりきたりする。オオジュリンに気がつく直後もう1羽がすぐそばにとまった
- 6) たくさんのツグミの中に居た
- 7) 大きなコナラの木の下枝にじっと止まっていました
- 8) 2014年初認
- 9) 当地方でのズグロカモメ夏羽の観察は初めてです
- 10) 2週間以上滞在
- 11) 撮影日以降何度か探しましたが、見つける事は出来ませんでした
- 12) 木の横枝にとまり複雑ないい声でさえずっていた
- 13) 全国で5例目である
- 14) 田んぼの畦に居た
- 15) ムクドリの群れに居た
- 16) 落ち葉の中の餌を探しながら、地面を歩き回っていました
- 17) 最初はこの個体を、見てびっくりしました。海外の本でも、この鳥はなかった。専門家に調べてもらったら茶色の色素が抜けたホオジロに当てはまるこのことで納得しました。
- 18) 2014.1.31日まで滞在していた
- 19) ガマズミの実を食べていた
- 20) ヒレンジャクの群れの中に1羽混じっていた
- 21) 梅林の芝生の上を歩いていた

- 22) 1日だけの滞在であった
- 23) 田曾浦の浅間山で鳴いていた
- 24) キアシシギ約 10 羽、ソリハシシギ 1 羽と一緒に採餌していました。山階鳥研究所に問合せ結果 2007 年 9 月 10 日：クィーンズランド州で放鳥 2009 年 8 月：四国の吉野川河口で観察 2014 年 5 月 3 日松阪市金剛川河口で観察が確認出来た



ズグロカモメ (清水勝海)

マミチャジナイ
(伊藤敏和)





ヤドリギツグミ (中井節二)

ミゾゴイ (中井節二)



バライロムクドリ (中井節二)



ホオジロ（色素異常）
（中井節二）



フラッグ付きキアシシギ
（田中洋子）

~~~~~  
**探鳥会報告（2014年2月～4月）**

● 木曾三川探鳥会  
2014年2月9日（日）9:00～12:20  
桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川  
・木曾川

近藤義孝 参加者4名（会員2名）  
オシドリ、ヨシガモ、マガモ、カルガモ、  
オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンク  
ロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツ  
ブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバ  
ン、タゲリ、カモメ、ミサゴ、チュウヒ、  
ハイイロチュウヒ、ノスリ、チョウゲンボ  
ウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラ  
ス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワガ  
ラス、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、タ  
ヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト  
計35種

前日は大雪のため、道路などの状況を心配したが探鳥会当日は雪も溶けていました。ただ、風も強かったため、参加者は4

名と少なかったです。  
揖斐川・長良川・木曾川ではノスリ、チ  
ョウゲンボウ、チュウヒ・ハイイロチュウ  
ヒが観察できました。また、集合場所近く  
で、カワガラスやオシドリを観察するこ  
ともできました。

● 安濃川河口探鳥会  
2014年2月9日（日）10:00～12:00  
津市高洲町 安濃川河口  
岡 八智子 杉村 滋弘 参加者12名  
（会員9名）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナ  
ガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ス  
ズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カワ  
ウ、アオサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、  
ミュビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カモ  
メ、セグロカモメ、ミサゴ、ハシボソガラ  
ス、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セ  
グロセキレイ、カワラヒワ、アオジ、ドバ  
ト 計27種



冷たい風の吹く中大変でしたが、兵庫からみえた小5男子親子さんにミヤコドリの群れ・ミュビシギの全力疾走を喜んで見てもらいました。

年頭には90羽居たミヤコドリが半分愛知へ移動したようです。餌の不足でしょうか？コクガンも今年はここに入りませんでした

#### ● 余野公園探鳥会

2014年2月9日(日) 10:00～12:00

伊賀市柘植 余野公園

塗矢尋一 澤村保廣 参加者11名(会員6名)

トビ、オオタカ、キジバト、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、シロハラ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アトリ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計17種

雪が10cm積もっていた。

お目当てはビンズイ、ベニマシコ、ルリビタキが見られるかでしたが、ビンズイ、ルリビタキは出たがベニマシコは出なかった。残念でした。

#### ● 五十鈴公園探鳥会

2014年2月22日(土) 10:00～12:00

伊勢市 五十鈴公園

高木正文 参加者14名(会員12名)

カイツブリ、カワウ、コサギ、トビ、ノスリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計30種

好天に恵まれて30種観察できた。公園に1羽しかいない「トラツグミ」も観察できた。今年の冬は「ツグミ」等の冬鳥が少ない。

#### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年2月23日(日) 9:00～12:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者16名(会員5名)

キジ(1)、オカヨシガモ(7)、ヒドリガモ(2)、マガモ(15)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(25)、コガモ(60)、ホシハジロ(30)、キンクロハジロ(10)、ミコアイサ(1)、カイツブリ(6)、キジバト(3)、カワウ(350)、アオサギ(4)、ダイサギ(3)、オオバン(1)、タゲリ(40)、ケリ(5)、イソシギ(1)、カモメ(2)、ミサゴ(1)、トビ(1)、ノスリ(5)、カワセミ(1)、モズ(5)、ハシボソガラス(200)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(15)、ヒヨドリ(20)、ウグイス(1)、ムクドリ(10)、ツグミ(6)、ジョウビタキ(3)、スズメ(50)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(4)、ホオジロ(4)、アオジ(6)、オオジュリン(5)、ドバト(10) 計41種

天候は快晴、風も弱く、野鳥観察日和でした。

観察の中心は冬鳥でしたが、ウグイスがさえずりの練習をしていました。

#### ● 石垣池探鳥会

2014年3月2日(日) 10:00～12:00

鈴鹿市石垣町 石垣池

市川美代子 参加者17名(会員8名)

ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計20種

市の広報に掲載していただきましたので、会員外の方が9名来てくれました。

ジョウビタキ♀にすぐ近くでじっくり会えたり、カモの美しさに見とれたりして、楽しんでいただけたようです。

#### ● 海蔵川探鳥会

2014年3月11日(火) 9:45～11:40

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者10名(会員8名)

カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、バン、オオタカ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メ

しろちどり 80号 (2014年6月)

ジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計24種

前夜の雪がけっこう積もっており探鳥会が開催出来るか少し心配でしたが、9時過ぎには道路の雪は完全になくなっており無事に開催できました。ただ、天気は良いが風が冷たい日になりました。

鳥の出が心配でしたが、開始早々からツグミが顔を出し、少ししてオオタカも飛んでくれました。定番のカワセミを見ることが出来ませんでした。時折クイナ（恐らくヒクイナ）の鳴き声を聞く事が出来き、ヒバリやウグイスのさえずりも聞くことができ、確実に春の訪れを感じる今年度最後の探鳥会となりました。



タニウツギ

● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年3月23日(日)9:00～12:20  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部  
近藤義孝 米倉 静 参加者18名(会員4名)

オカヨシガモ(12)、マガモ(1)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(15)、コガモ(100)、ホシハジロ(12)、キンクロハジロ(2)、カイツブリ(10)、キジバト(10)、カワウ(50)、アオサギ(3)、ダイサギ(2)、オオバン(25)、タゲリ(20)、ケリ(10)、コチドリ(5)、クサシギ(3)、イソシギ(2)、ユリカモメ(1)、ミサゴ(2)、トビ(2)、チュウヒ(3)、オオタカ

(1)、ノスリ(2)、カワセミ(2)、モズ(2)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(70)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(25)、ツバメ(5)、ヒヨドリ(5)、ウグイス(1)、メジロ(1)、ムクドリ(20)、シロハラ(1)、ツグミ(10)、ジョウビタキ(2)、スズメ(20)、ハクセキレイ(5)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(10)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(7)、アオジ(2)、オオジュリン(2)、ドバト(15) 計47種

前回に続き、天候は快晴、風も弱く、野鳥観察日和でした。

まだ、冬鳥が残っているところに、ツバメなどもいたので、47種も観察できました。

● 篠田山探鳥会

2014年3月30日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 五主探鳥会

2014年4月13日(日)9:30～11:30  
松阪市 五主海岸・大池  
西村四郎 小野新子 参加者17名(会員14名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ケリ、ダイゼン、コチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、タシギ、オオソリハシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、タカブシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、ツグミ、タヒバリ、ホオジロ、アオジ 計42種

集合時は潮がだいぶ引いており、鳥は遠かったです。オオソリハシシギ、ダイゼン、ハマシギ、ミヤコドリのシギチ類、頭が黒くなっているユリカモメ、夏羽になってきたセグロカモメ、オオセグロカモメのカモメ類、多くのカモ類が観察できました。

この後五主池へ立ち寄り、まだけっこう残っているスズガモ、キンクロハジロ等を観察し、大池へ移動しました。今年は太陽



光発電施設が出来たので毎年恒例のツルシギが来てくれるか心配しましたが、元気な姿をみせてくれ、一安心でした。

探鳥会では見られなかったですが、コムクドリやエリマキシギも確認できました。

● 五十鈴川上流探鳥会

2014年4月19日(土) 6:30～8:30

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊 参加者10名(会員10名)

カルガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、トビ、サシバ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、アオジ、クロジ 計32種

快晴の早朝、木々の若葉が萌え、照葉樹の落葉が舞い散る新緑の絶好のコンディションで開催できた。

オオルリ、キビタキをはじめ32種を確認(鳴声)できた。至近距離でクロジを観察でき、よかった。

探鳥会本番の前後で奥に進んだメンバーが、オオルリ、サシバ、ヤブサメを視認。

● 志原川及び水田探鳥会

2014年4月20日(日) 開催予定でしたが、都合により中止しました。

● 県民の森探鳥会

2014年4月26日(土) 9:30～12:20

三重郡菰野町千草 三重県民の森

矢田栄史 安藤宣朗 参加者17名(会員13名)

キジ、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キビタキ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル、マミチャジナイ、コジュケイ、ドバト 計16種

晴れ、無風、暑い日になった。夏鳥は4月中旬からやってきている。

当日は、キビタキのさえずりが聞こえたが、林の奥の方のため、姿は確認できず。

コジュケイの大きな声、メジロのさえずりがあちこち、コゲラが虫をつかまえて食べるころなど観察できた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年4月27日(日) 9:00～12:10

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者14名(会員8名)

キジ(6)、マガモ(5)、カルガモ(17)、ハシビロガモ(2)、コガモ(46)、ホシハジロ(6)、カイツブリ(1)、キジバト(7)、カワウ(100)、アオサギ(10)、ダイサギ(4)、ケリ(25)、コチドリ(3)、チュウシャクシギ(13)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ユリカモメ(15)、ミサゴ(1)、トビ(1)、チュウヒ(8)、オオタカ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(30)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(20)、ツバメ(20)、ヒヨドリ(2)、ウグイス(5)、メジロ(1)、セッカ(10)、ムクドリ(10)、ツグミ(2)、スズメ(50)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(8)、ホオジロ(5)、ドバト(5) 計40種



オオルリ

今回も快晴でした。

開始時に集合場所の弥富野鳥園ではチュウヒが4羽飛んでいました。カモ類は減りましたが、チュウゲンボウなども観察できました。

● 青山高原探鳥会

2014年4月27日(日) 9:30 ~ 12:00

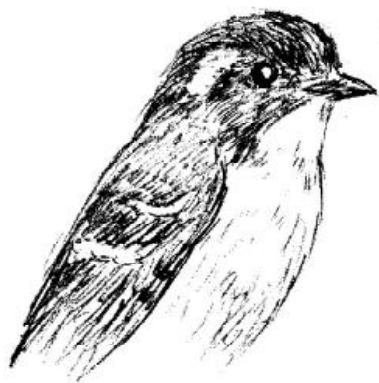
津市白山町伊勢見 青山高原

岡 八智子 服部公子 参加者22名(会員20名)

キジ、キジバト、トビ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ 計22種

全山新緑の芽吹き、満開の山桜も見られ素晴らしい景色の中での探鳥会でした。

姿を探すのは大変でしたが、次々聞こえてくる鳥の鳴き声に耳をすませました。期待していたカッコウ科の鳥たちの声には少し早かったようで残念ながらダメでした。探鳥会終盤に、コジュケイのような鳴き声が聞こえてきたのですが、少し違うし他の鳥が真似しているらしいと皆で大いに悩んだ末、キビタキではないかと結論付けました。鳥の声は本当に難しいです。



ムギマキ

編集後記

山の夏鳥もひとそろいそろった。遅かったホトトギスの声も先日聞いた。ホトトギスの初鳴きは忍び音(しのびね)というらしい。あのけたたましい声を忍び音とはどう考えてもおかしい。きっと夜明け前、遠くの山から聞こえるホトトギスの微かな声を忍び音と名付けたのだろう。

藤の花も終わり、あれほど鮮やかだった新緑ももうスギやヒノキの深い緑の中に沈み込んでゆく。

今回もあくせくして編集を終えた。新聞までもカラーになっている時代で、会報もカラーにしたい。特に会員の鳥の写真を白黒で掲載するのは忍びない。オオルリやキビタキは白黒写真ではちっとも面白くない。カラーにしても印刷会社を選べばさして高価にはならない。しかし、それにはページ数、校正の有無など、色々制約がある。編集を手伝ってくれる人がいれば可能なのだが。

(M. H.)

しろちどり 80号

2014年6月15日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 杉原 豊

カット: 平井正志

編集: 平井正志

発行所: 日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印刷: 伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13